

福井大学大学院

福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学

連合教職開発研究科

連合教職大学院

学校のリーダーを育て、
「学校拠点方式」に基づき学校の問題を解決し、
高い教師力を目指す連合教職大学院



福井大学



ラウンドテーブル



奈良女子大学



岐阜聖徳学園大学

United Graduate School of Professional Development of Teachers
University of Fukui, Nara Women's University, and Gifu Shotoku Gakuen University



日本の教師教育を 世界に

学長 上田 孝典

本学の連合教職大学院は学校拠点方式の大学院です。現職教員が働きながら学ぶ大学院であり、学校の課題を学校で、他の教員と協働して解決する学校づくりのための大学院です。このような姿は「専門職は現場で育つ」ことを考えると当然の帰結かもしれません。しかし、その一方で世界に開かれ

た学びの場が保障されていなければ、OJTの限界を乗り越えることはできません。本学の教職大学院は、学校の中の世代間交流に加え、学校種や地域や専門性の違いを超えた学びの場が保障されている複合型コミュニティであることに特徴があります。現在、このような教師教育が世界から注目を浴びております。世界に羽ばたく教職大学院であることを期待しております。



実践力を身につけた 教員を目指して

教育学部長 山本 博文

教職大学院は、これまで身につけてきた知識・技能を磨くとともに、学校で教えるということについて、教師という仕事について、学校現場での長期インターンシップや現場での経験を踏まえて学ぶことのできる大学

院です。また授業研究・教職専門性開発コースの入学者には、新たに小学校、中学校、特別支援学校等の免許取得の道を開く教員職員免許取得プログラムも用意されています。ぜひ教職大学院に入学し、自信を持って教師として学校現場に入っていける実践力を身につけてください。



未来を拓く学校を 創るために

研究科長 柳澤 昌一

学校が、未来の社会の担い手が学び育つ場である限り、学校はつねに未来に向けて発展し続けなければなりません。そして学校を支える私たちもまた、未来の社会につながる学校を創るために、学び続けなければなりません。これまでの教育の伝統を礎に、未来

をひらく新しい学校を創る。教師の協働の実践力、授業を創り子どもたちのコミュニティを支える力が求められます。そして教師が専門職として学び合う組織とそのマネジメントが必要となります。連合教職大学院はそうした新しい学校づくりの担い手のために生まれた、教育専門職の大学院です。未来を拓く学校を実現する協働の企図に、ぜひ参画していただければと願っています。

| 推薦の言葉 |

わたしたちも応援します。



福井経済同友会 代表幹事

江守 康昌

世界の人口増と日本の人口減少、AIやIoTに見られるICTの発達等、社会は大転換期にあり、私達は、迅速・主体的に対応できる人間力が問われています。この能力を育み、研究と実践を伴い教育力を養う大学院として、大きな期待を寄せています。



福井県教育委員会 教育長

豊北 欽一

一人ひとりの個性が輝く、ふくいの未来を担う人づくりを実現するためには、柔軟な思考力と実践力を兼ね備えた教員の存在が欠かせません。各地域の学校現場で中心的存在としてマネジメントや授業改革を推進できる教員の育成を期待します。



福井市教育委員会 教育長

吉川 雄二

学校・家庭・地域が力を合わせ、社会全体で子どもたちの「生きる力」をはぐくむことが求められています。そのために、福井大学教職大学院で協働的な実践研究を進めながら、教員としての専門的力を向上させることを期待いたします。



南越前町教育委員会 教育長
(福井県町教育長会会長)

上田 康彦

多様な子供たちに多様な支援が求められている時代です。学校現場に根を張っている福井大学教職大学院だからこそできる多様な教師力の育成を期待しています。

教職大学院設置の目的

変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、学校は多くのことが求められています。家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量的の向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量的の開発を目的として、教職大学院を開設しました。平成30年度からは、奈良女子大学と岐阜聖徳学園大学と連合教職大学院を構成し、令和2年度には、大学院教育学研究科が連合教職開発研究科に統合されます。特色ある附属学校・拠点校における実践研究を活かして、新しい教師教育を実現します。

「協働実践力」を構成する4つの力

1. 学習と成長を支えるファシリテーター・コーディネーターとしての実践力
2. 学習の協働組織とその改革のマネジメント力
3. 実践の質を不断に高め発展させていく省察・研究能力
4. 公教育としての学校を担う専門職としての教員の理念と責任

学校拠点方式による学びの7つの特徴

1. 学部卒院生は年間を通じた実習を通じて、教師としての高度な協働実践力を身につけます。
2. 現職教員院生は、所属校に勤務しながら、大学教員や同僚とともに学校の課題にとりくみ、協働実践力の質を高めます。
3. 今日的課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
4. 大学教員がチームでバックアップします。
5. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場や県の教育研究機関へ出向きます。
6. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
7. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

免許取得プログラム

3年間に在学し、新たに小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教育職員免許取得の道を拓くプログラムです（授業研究・教職専門性開発コース）。

教育課程の概要

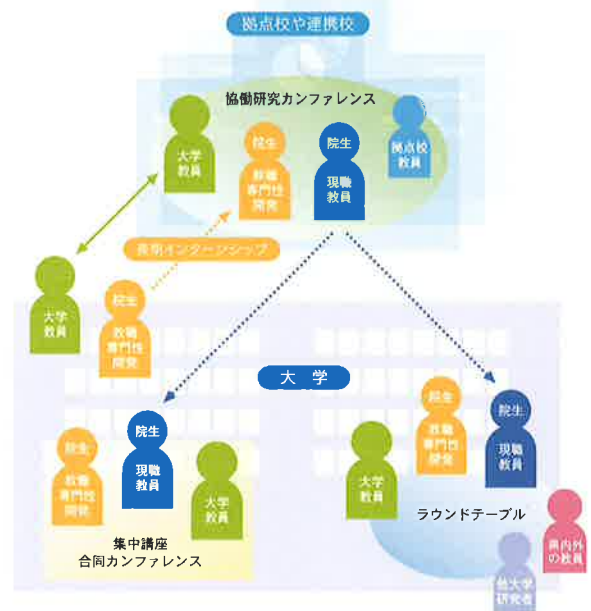
学位 …………… 教職修士（専門職）

修業年限 …………… 原則として2年

必要修得単位 …… 学校における実習
共通科目、コース別選択科目
計45単位以上を取得すること

入学定員 …………… **60名**
学校改革マネジメントコース 概ね20名
ミドルリーダー養成コース 概ね15名
授業研究・教職専門性開発コース 概ね25名

授業研究・教職専門性開発コースでは、教科内容・教材開発の研究を重視して、チームで教科横断的・実践的なプロジェクトを立案・設計・実践する「授業研究専門性開発アプローチ」と、授業実践を中心として、学級活動や行事などの特別活動、校内研修に参画し、子どもたちと密に関わった教育実践研究を行う「教職専門性開発アプローチ」のいずれかを選択して学びます。



現職院生の多様な学び

県のマネジメント研修など所定の研修や講座の受講等を入学時に単位認定することで、1年での修了も可能としています。職業を有している等の事情により、標準の修業年限を超えて柔軟かつ計画的に履修することも可能です。

教育課程の特色

学校拠点の協働実践研究プロジェクト

学校を拠点とし、学校が抱える課題について教職大学院と学校が協働して取り組みます。

協働実践力の開発・発展を支援

「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを創り出していきます。

長期実践研究報告の作成

修士論文は課しませんが、長期実践研究報告の作成と発表を行います。

1年間の学校における実習

1年間を通して、学校の年間リズムの中で実習を行います。

事例研究センターの共通科目

「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、学校拠点の協働研究・カンファレンス・事例研究を通して学びます。

コース別選択科目

「カリキュラムと授業」「子どもの成長発達支援」「コミュニティとしての学校」「学校改革マネジメント」の4つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

修了生の声

高浜町立青郷小学校
教諭 福岡 友輝



「教師という職は準備期間がなく、いきなり現場で戦っていかないといけない。」私の現在の初任者研修の校内指導担当の先生の言葉です。私は昨年度に、教職大学院を終了し、現在5年生の担任として日々成長をさせてもらっています。確かに、毎日が新しいこと、挑戦だけでなく、1日1日を送ることに精一杯な状態です。しかし、教職大学院でのインターンシップを通して学んだことを土台とし、立ち止まった際には「どうしたらよいか」ではなく、「何が大事なのか」を考えるようにしています。この考えは、教職大学院の2年間で培い、自分が一番大切にしていたことであり、教師になった今でも、立ち返るべき視点として持ち続けています。今後も、一日一前目で目の前の子供たちのために学び続けていきたいと思っています。

教育課程の構成

| | 学年履修単位(目安) | |
|-----------------|------------|------|
| | 1年次 | 2年次 |
| 学校における実習 (10単位) | 10単位 | 0単位 |
| 共通科目 (20単位) | 14単位 | 6単位 |
| コース別選択科目 (15単位) | 2単位 | 13単位 |
| 合計 (45単位) | 26単位 | 19単位 |

授業科目例

共通科目例

1. カリキュラムのデザインの実践事例研究
2. 授業づくりの長期実践事例研究
3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究
4. 学校協働組織マネジメント
5. 教師の実践的力量形成の課題と実践

コース別選択科目例

1. カリキュラム・授業改革マネジメント学校拠点長期協働実践プロジェクト
2. 児童生徒の成長・発達支援学校拠点長期協働実践プロジェクト
3. コミュニティとしての学校と教師の力量形成学校拠点長期協働実践プロジェクト

※いずれの科目も3名程度の大学教員がチームで担当します。
※令和元年度のカリキュラムです。

修了生の声

県教育庁高校教育課
参事 坪川 修一郎



「マネジメントは?」「学校改革とは?」このような問いかけを繰り返した2年間でした。日々の実践を語ることで実践の中に埋もれていた「気づき」が言語化される。また時には、人の語りを聴くことで自分自身の実践を問い直す。このような大学院での学びのサイクルの中で、私自身はマネジメントへの新しい視点に「気づく」ことができました。しかし、決して答えが見つかったとは思っていません。「答えのない問い」に向かって学び続けること、それが教職大学院で私が一番に学んだことではないでしょうか。

教職大学院の1年

ミドルリーダー養成コース
学校改革マネジメントコース

授業研究・教職専門性開発コース



在学生の声

授業研究・教職専門性開発コース2年
三村 桃加



連合教職大学院では、自分の学びを見つけることができ、またその学びを探究する環境が充実しています。インターン生として週に3回教室に入り、子どもと関わり、現職の先生と関わる中で、教師として必要な資質・能力は何なのか、自分がその中で不足している力は何なのか客観的に捉え直しができました。そして、その学びを実際にインターンの中で実践に移すことができ、理論と実践を繰り返す中で自分自身の成長を少しずつ感じています。充実した環境の中で、教師としての力量を高めたいために頑張りたいと思います。

在学生の声

授業研究・教職専門性開発コース3年
竹内 達郎



この教職大学院の一番の魅力は、長期的な学校現場でのインターンシップです。長期的に現場に行くことにより、短期的な活動では見えない、子どもの姿や成長を感じ取ることができます。そこで得た学びを基に授業づくりを行い、反省を重ねていくことで密度の濃い授業実践を行うことができます。また、定期的に開かれるカンファレンスでは、他の院生や先生方とインターンシップで得た学びや疑問などを語り合うことで、自分の中にある考えや知識を整理しなおすことができ、自分の学びをより強固なものにしていくことができます。



4 April

開講式

月間カンファレンス
(5.7.10.11月にも開催)

週間カンファレンス
(毎週1日、授業研究・教職専門性開発コースの院生を対象に開講)

5 May

6 June

ラウンドテーブル

授業実践

7 July

集中講座

8 August

9 September

10 October

11 November

12 December

集中講座

1 January

2 February

長期実践研究報告会

ラウンドテーブル

3 March

学位記伝達式



在学生の声

ミドルリーダー養成コース2年
市立札幌大通高校
西野 功泰



教職大学院の魅力は、全国各地の先生方の多様な価値観に触れ、対話を重ねながら学び合い、励まし合い、互いの力量を高め合えるところです。また、学校や自分自身が抱えている課題や問題の解決に向けて、これまでとは違う視点や考え方を身につけながら実践を積み重ねていけることに、やり甲斐や喜びを感じています。札幌を離れ、遠く離れた場所に通いながら学ぶことに、はじめは不安もありましたが、外に出ることで、より自分が勤めている学校やまち、そして札幌人の魅力を発見できるようになりました。今後も大学院でのヒト・モノ・コトとの出会いを楽しみながら成長していきたいと思っています。

在学生の声

学校改革マネジメントコース2年
小浜市立小浜小学校
小坂 恵



2年間で100人もの方々と出会い語らうことができるこの教職大学院。その語らひは①自らの課題を明確にし②意識下にあった疑問や願望に気づかせてくれ③視野を広げ④実践意欲を高めてくれます。自校の改善策を院生仲間とざっくばらんに話し合い、指導スタッフから助言を得るというオーダーメイドのぜいたくな学びの時間は、満ち足りた気持ちになれます。対話の効果を実感できるため、勤務校でも管理職の声をじっくり聴かせていただいたり、同僚とともに課題解決策を考えたりする機会が増えました。県内外の志を同じくする仲間から刺激を受け、勇気づけられています。

在学生の声

学校改革マネジメントコース2年
岐阜県羽島市立中島小学校
石垣 治彦



教職大学院で最新の理論を学びながら、学校現場を離れず実践研究を行える拠点校方式は、自分の学びを現場にすぐに還元できることがよさです。実際に学校での実践や悩みを、教授や院生の先生方と語り合いながら解決できる月間カンファレンスは、講義形式の座学と異なり非常に有効でよい影響を与えてくれます。様々な立場の方の実践を聞くことは、自身の視野を広げると共にたいへんよい刺激になります。さらに、指導力向上にもつながっています。また、教師の動き方に合わせてカンファレンスやラウンドテーブルの時期が設定されており、教職大学院は、学校業務に支障なく学ぶことができています。

2019年度 福井大学大学院 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科 拠点校・連携校・ISNクラスター校

拠点校 19拠点

- ① 福井県嶺南教育事務所
- ② 福井県教育総合研究所
- ③ 福井県特別支援教育センター
- ④ 福井県幼児教育支援センター
- ⑤ 福井大学教育学部附属幼稚園
- ⑥ 福井大学教育学部附属義務教育学校
- ⑦ 福井大学教育学部附属特別支援学校
- ⑧ 福井市中藤小学校
- ⑨ 福井市至民中学校
- ⑩ 坂井市立丸岡南中学校
- ⑪ 美浜町立美浜中学校
- ⑫ 福井県福井東特別支援学校
- ⑬ 福井市明新小学校
- ⑭ 東京都板橋区立中台中学校
- ⑮ 東京都板橋区立赤塚第二中学校
- ⑯ 東京都板橋区教育委員会教育支援センター
- ⑰ カリタス学園(幼稚園・小学校・中学高等学校)
- ⑱ 奈良女子大学附属学校(幼稚園・小学校・中等教育学校)
- ⑲ 岐阜聖徳学園大学附属小学校・附属中学校



連携校 25校

- ① 福井市六条小学校
- ② 福井市明倫中学校
- ③ 福井市森田中学校
- ④ 越前市神山小学校
- ⑤ 坂井市立長畝小学校
- ⑥ 坂井市立雄島小学校
- ⑦ 坂井市立加戸小学校
- ⑧ 勝山市立村岡小学校
- ⑨ 敦賀市立松陵中学校
- ⑩ 敦賀市立角鹿中学校
- ⑪ 敦賀市立松原小学校
- ⑫ 敦賀市立東浦小学校
- ⑬ 敦賀市立敦賀南小学校
- ⑭ 小浜市立小浜小学校
- ⑮ 高浜町立青郷小学校
- ⑯ さくら認定こども園
- ⑰ 福井佼成幼稚園
- ⑱ 報徳幼稚園
- ⑲ 幼保連携型認定こども園和田こども園
- ⑳ 金沢大学附属高等学校
- ㉑ 市立札幌大通高等学校
- ㉒ 羽島市立中島小学校
- ㉓ 羽島市立中央小学校
- ㉔ 兵庫県立御影高等学校
- ㉕ 東京大学教育学部附属中等教育学校

ISNクラスター校 6校

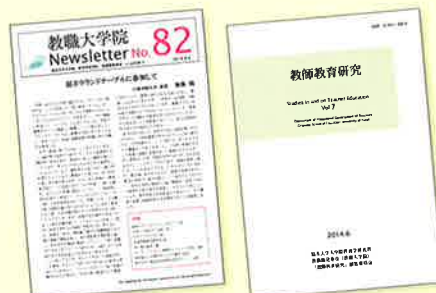
- ① 福井県立羽水高等学校
- ② 福井県立高志高等学校
- ③ 福井県立若狭高等学校
- ④ 福井県立武生高等学校
- ⑤ 福井県立丸岡高等学校
- ⑥ 北陸高等学校



院生の 経済支援について

福井大学基金にもとづき、本教職大学院に在籍する院生に対して、授業料補助や奨学金の制度があります。

教職大学院関係刊行物等



各種刊行物は教職大学院コラボレーションホールで閲覧することができます。一部は教職大学院ホームページでも公開しています。



JR福井駅から文京キャンパスへは

- えちぜん鉄道……………福井駅→福大前西福井駅下車
(約10分)
- バス(JR福井駅西口バスターミナル2番のりば)
……………福井駅→福井大学前下車
(約10分)
- タクシー……………JR福井駅から約10分

福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- JRで 大阪・京都—湖西線經由—福井
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車で 大阪・京都<名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間)

名古屋・静岡方面から

- JRで 静岡・名古屋—米原經由—福井
(名古屋から新幹線と特急で約1時間40分、特急で約2時間10分)
- 自動車で 名古屋—<名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC
(約2時間30分)

東京方面から

- 飛行機で 東京羽田—小松空港(約1時間)—福井(連絡バス約1時間)
- JRで 東京—米原經由—福井(東海道新幹線と特急で約3時間30分)
東京—金沢經由—福井(北陸新幹線と特急で約3時間30分)
- 自動車で 東京—<東名・名神>—米原JCT—<北陸>—福井・福井北・丸岡IC(約7時間)
※高速バスもあります。



お問い合わせ先

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1
TEL:0776-23-0500(代) E-mail: g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

なお、入試情報、各専攻・専修教員の研究分野・研究業績等の詳細は
本学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/> をご覧ください。

教職大学院ホームページの紹介

<http://www.fu-edu.net/>

ニュースレターのバックナンバーをご希望の方はお問い合わせください。